
薩摩暦について

鹿児島県立鹿児島中央高等学校科学部天文班
柿内 葵（高2）、末吉 宝太郎（高1）【鹿児島県立鹿児島中央高等学校】

要 旨

薩摩藩でかつて使用されていた薩摩暦と呼ばれる独自の暦と、当時の観測技術を調査して、当時の観測機器により天体観測を行うことを目的とした研究である。

1. はじめに

私たちが在籍している鹿児島中央高等学校は、江戸時代、明時館と呼ばれる天文観測所が存在した天文館の近くにある。私たちは、薩摩暦と呼ばれる薩摩藩（現在の鹿児島県、宮崎県の一部）でのみ使われていた暦があると知り、どのような暦であるか、当時の別の地域の暦や現在の暦とは何が違うのか、当時はどのようにして観測していたのかが気になり、研究することにした。

2. 先行研究

薩摩暦は鎌倉時代から使用されていたとされるが、詳しい事はよくわからず、正式な記録が残っているのは江戸時代からである。薩摩暦は月の満ち欠けを基準とした太陰暦の一種である。江戸時代に唯一改暦を免れた地方暦であり、その当時、他の地域で使用されていた暦とは違う点が多々存在する。特筆すべきは、その当時の他の暦よりも正確である点で、その正確性を示すような逸話が数多く残っている。しかし、明治維新と同時に多くの資料が燃やされ、資料はほとんど残っていない。

3. リサーチクエスト

薩摩暦はどのような暦で、正確な観測はどのような観測技術により行われたのか。また、その観測技術はどこから伝わったのか。

4. 研究方法

現存する資料を使用して、薩摩暦とは何かを調べる。また、中国やその他の地域の暦との類似点から、観測技術がどこから伝来したのかを調べることで、当時の観測方法を明らかにする。

5. 現在までに分かっている事

薩摩暦は観測が正確であったことから、江戸でも使用されて、天体観測に役だったと記述されていた（伊藤，2005）。また、その日に行ってもいい事や悪い事の記述も残っており、現代のカレンダーと似たような役割を担っていたと考えられる。

6. 今後の展望

今後は、どこから天体観測の技術を入手したのか、また、その記録と同じ日、同じ時刻に本当に日食や月食などの天文現象は起こったのかを調べ、当時の観測方法で観測して、現代に薩摩暦をよみがえらせるのを最終目標とする。

7. 参考資料

- ・伊藤節子，薩摩暦の歴史（於：鹿児島歴史資料館黎明館），2005.6.25
- ・日月食用データベース 国立天文台暦計算室，
<https://eco.mtk.nao.ac.jp/cgi-bin/koyomi/eclipsedb.cgi>